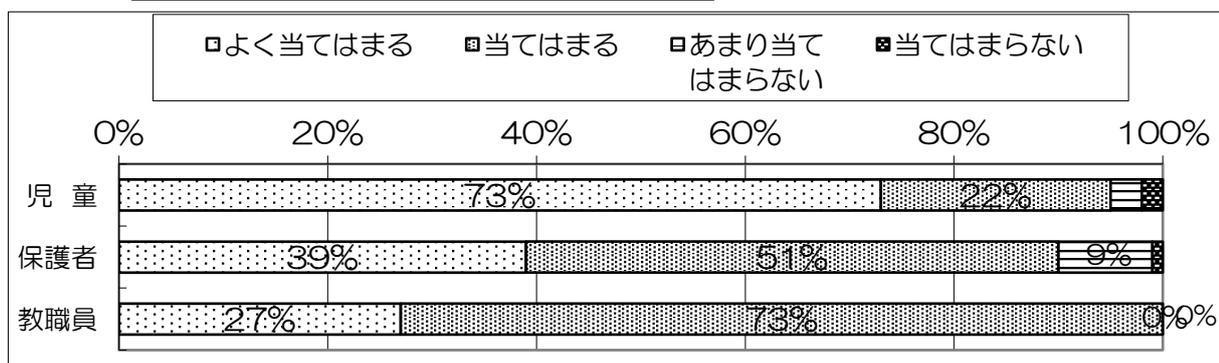


令和4年度 本校教育に関する調査結果について

栃木市立吹上小学校

1 お子さんは、学校が楽しいと感じている。

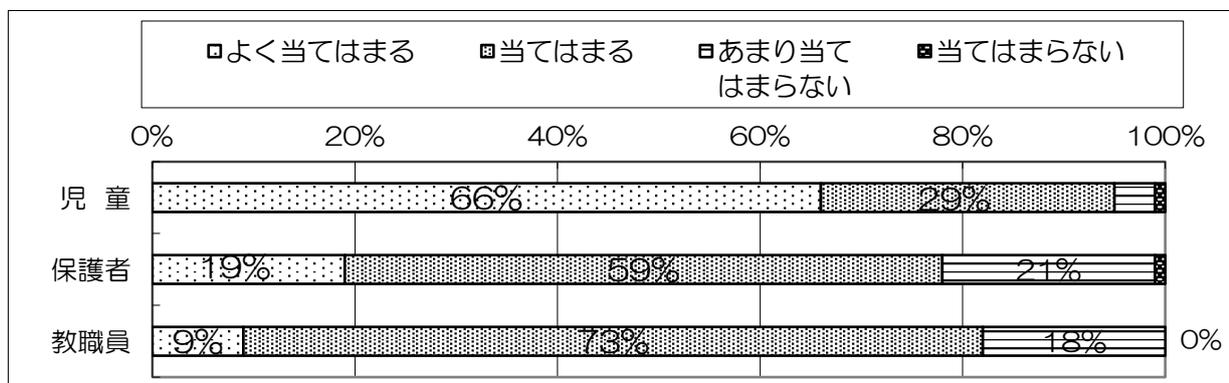
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
児童	73%	22%	3%	2%
保護者	39%	51%	9%	1%
教職員	27%	73%	0%	0%



90%以上の児童、保護者が「よく当てはまる」「当てはまる」と答えており、多くの児童は楽しく学校に来られているようである。教職員の「よく当てはまる」と答えた割合は30%未満と低いのは、登校を渋る児童が見られたためと考えられる。しかし「当てはまる」が70%以上となっており、多くの児童は楽しく学校生活を送っているととらえられる。若干名ではあるが、学校が楽しくないと感じている児童、とそれを心配する保護者がいることを忘れず、今後も一人一人に目を向け、児童の心情を汲み取る努力をするとともに、だれもが居がいのある学級経営が必要である。また、今後も教育相談等の充実、児童と保護者の不安や心配を取り除く努力、必要があれば外部機関との連携等を図っていきたい。

2 お子さんは、家庭や地域でお世話になっている人にあいさつをしている。

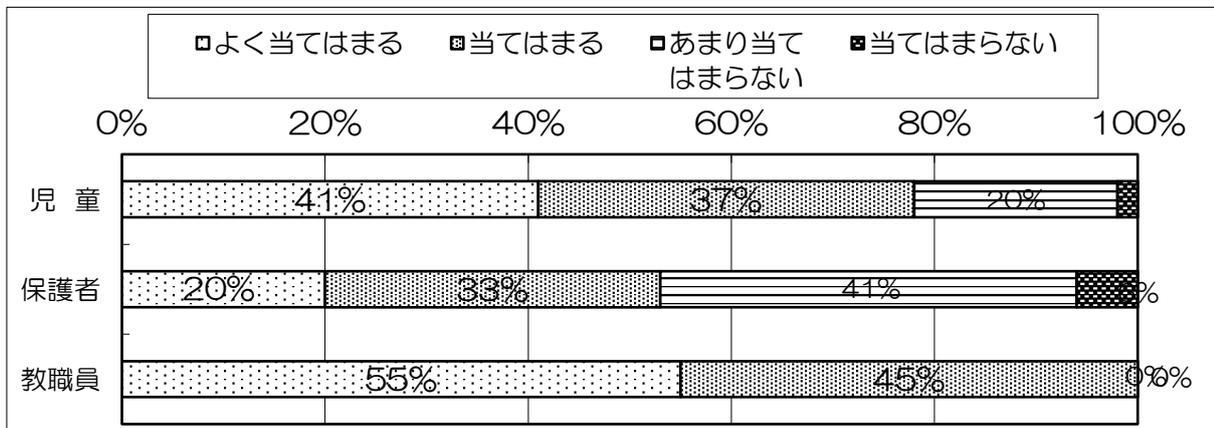
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
児童	66%	29%	4%	1%
保護者	19%	59%	21%	1%
教職員	9%	73%	18%	0%



70%近い児童が「よく当てはまる」と答えている。一方、保護者、教職員は「よく当てはまる」が20%未満となっており、児童と保護者、教職員間で、意識のずれが大きい。教職員は、指導をしながらもなかなか定着せず、まだまだであると感じている。コロナ禍の中で大きな声を出すことへの抵抗から、登校時等、保護者やボランティア、教職員へのあいさつが十分にできないことも影響していると思われる。児童には相手に伝わるよいあいさつについて考えさせ、状況に応じてどのようなあいさつをすればよいかを具体的に指導していく必要がある。さらに、家庭の協力も得ながら、自分から進んであいさつができるよう、指導を継続、工夫していきたい。

3 お子さんは、家庭で読書に親しんでいる。

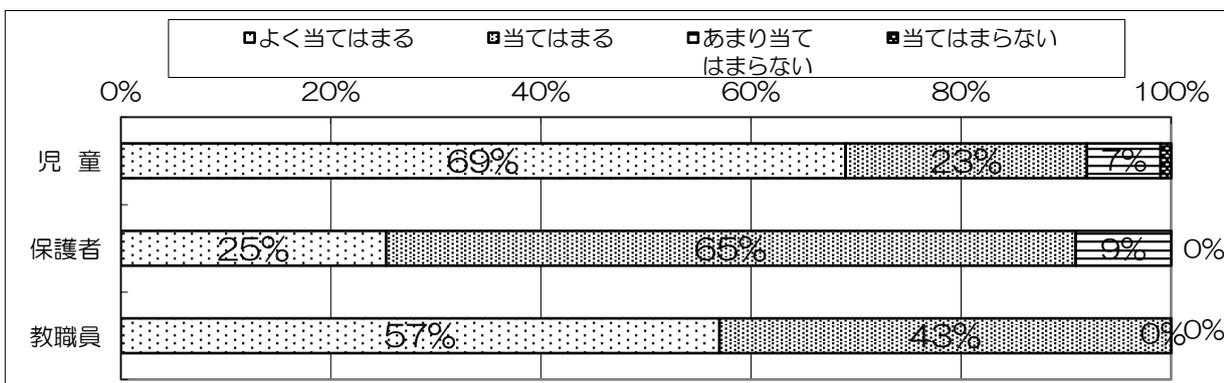
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
児童	41%	37%	20%	2%
保護者	20%	33%	41%	6%
教職員	55%	45%	0%	0%



「よく当てはまる」「当てはまる」と答えた児童は80%近く、保護者は50%程度、教職員は100%と結果に違いが見られた。学校では読書の推進や読み聞かせ、PTA会費による図書の充実、うちどくの日の設定等の手立てを講じており、朝の活動の時間や授業中の課題終了後に読書に励む児童の様子から、教職員の評価が高くなっていると思われる。しかし、家庭では、保護者の満足するような主体的な読書までには至っていない様子が伺える。また、個人差が大きいことも課題である。今後も、読み聞かせボランティアの方等の力をお借りし、多様な本に出会う機会を多く設定したり、日常の読書指導を充実させたりするとともに、うちどくの日のさらなる充実を図れるよう家庭に働きかけをしていきたい。

4 教職員は、お子さんのトラブルや悩みなどに対応している。

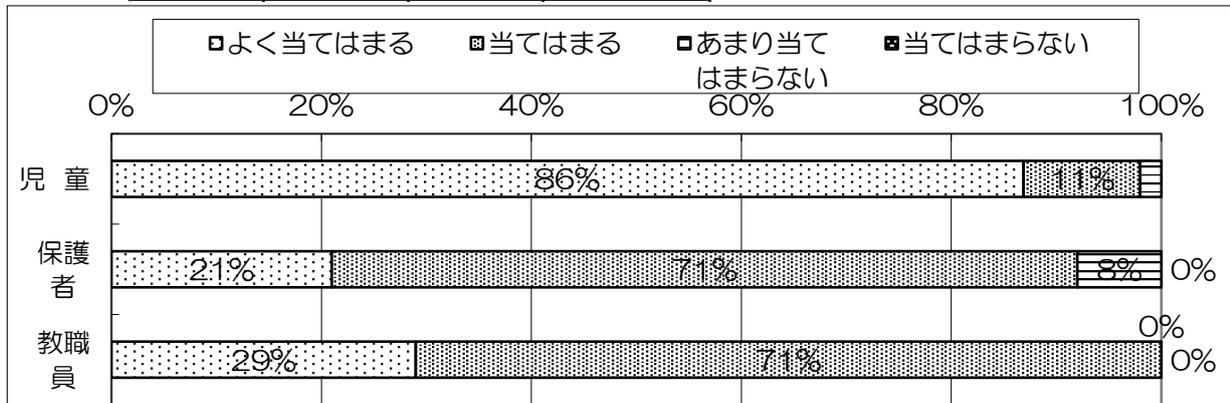
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
児童	69%	23%	7%	1%
保護者	25%	65%	9%	0%
教職員	57%	43%	0%	0%



「よく当てはまる」「当てはまる」と答えた児童、保護者ともに90%程度となっており、児童の相談やトラブル等への教職員の対応に、児童と保護者ともにほぼ満足しているものと思われる。しかし、「あまり当てはまらない」「当てはまらない」と答えた児童と保護者が10%程度いることを忘れず、教職員は、児童の小さな変化を見逃さず、困っている児童やトラブルのある児童等から話を十分に聞き、児童が納得できる対応を心掛けるとともに、今まで同様、組織として児童指導にあたっていきたい。そして、保護者に対しても、心情に寄り添い丁寧に説明を行っていくことを心掛けたい。

5 学校は、分かる授業を工夫し、学力の向上に努めている。

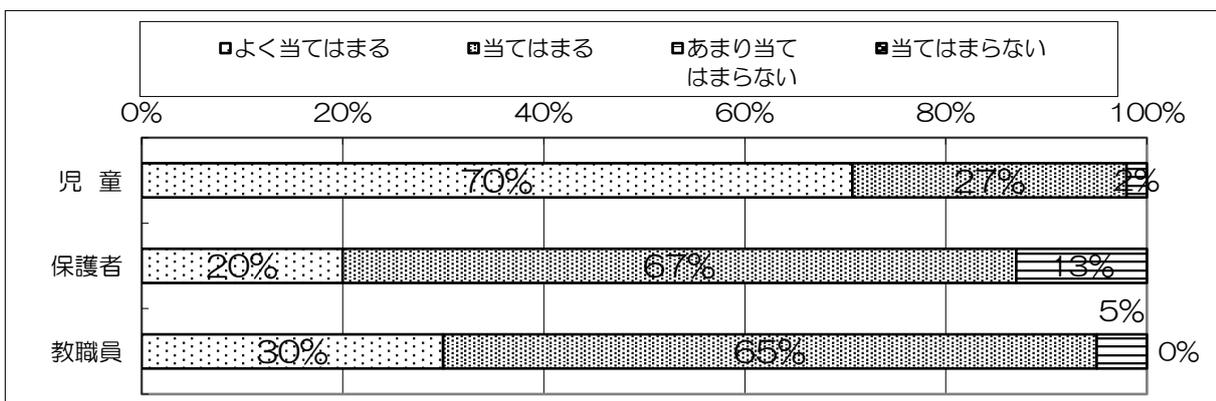
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
児童	86%	11%	2%	0%
保護者	21%	71%	8%	0%
教職員	29%	71%	0%	0%



「よく当てはまる」「当てはまる」と答えた児童と保護者は90%を超えており高い数値となっている。授業が分かると感じている児童が多く、保護者も、努力している担任や学校の姿勢を評価してくれていることが伺える。しかし、新しい時代に求められる学力観に沿った、よりよい授業をめざすために、単なる知識・技能の習得に留まらず、主体的・対話的で深い学びが実現できるように教材研究を充実させたい。また、学校課題の研究主題「自分の考えをもち、学び合う子どもの育成」を推進するとともに、算数の少人数指導、タブレット端末の有効活用、朝のチャレンジタイムの充実などを通して、個別最適な学びや協働的な学びの実現を図っていききたい。

6 お子さんは、授業中、先生や友達の話をよく聞いたり、考えたりしている。

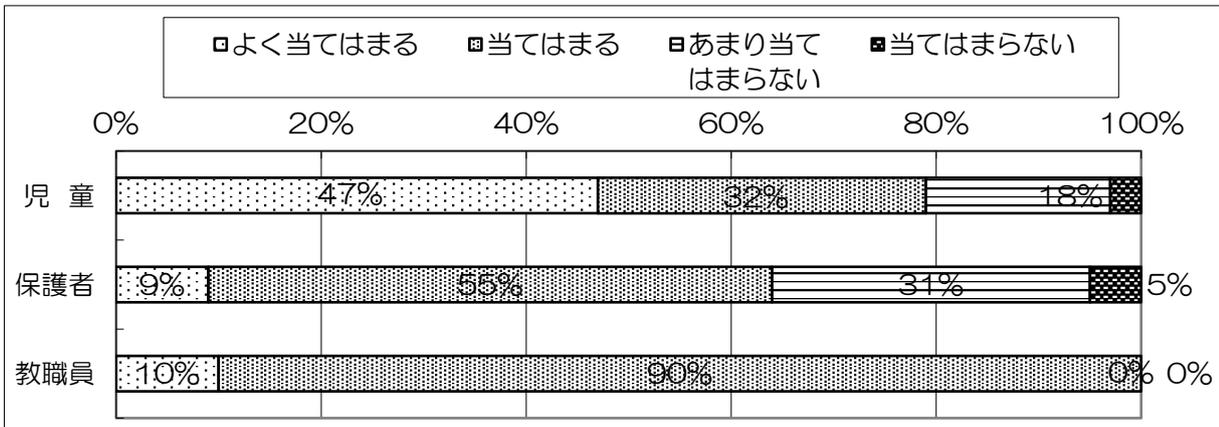
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
児童	70%	27%	2%	0%
保護者	20%	67%	13%	0%
教職員	30%	65%	5%	0%



「よく当てはまる」と答えた児童は70%いるのに対して保護者は「よく当てはまる」が20%、教職員は30%と開きがある。「よく話をきいたり、考えたり」ということに関しては、具体的な姿として見取れない部分もあるが、児童に対して「話をよく聞いたり、考えたりする」ということは、具体的にどのようなすればよいかについて、指導していく必要がある。自分の考えを持つためには、まず先生の話や友達の話をよく聞くことから始まるということ、普段の授業から意識させたい。また、10%を超える保護者が「あまり当てはまらない」と答えていることを考えると、家庭においてもテレビやゲームなどの使用についてルールを設け、家族との会話の時間を大切にすることも重要であると思われる。

7 お子さんは、授業中、先生や友達に自分の意見や考えを発表している。

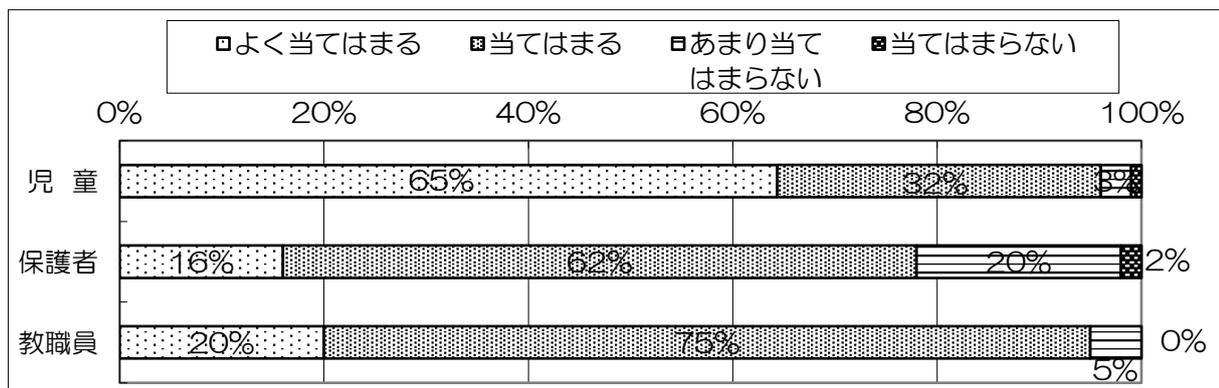
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
児童	47%	32%	18%	3%
保護者	9%	55%	31%	5%
教職員	10%	90%	0%	0%



「よく当てはまる」「当てはまる」と答えた児童は80%程度、保護者が60%程度、教職員が100%と開きがある。発表するということのとらえ方が3者によって異なることが考えられる。教職員が児童同士の小集団の中での意見交換も発表ととらえているのに対して、児童や保護者が一斉授業の全体での発言を発表ととらえていることもあると考えられる。ペアやグループ等の小集団の中で、自分の意見を伝え合う場面を多く授業に取り入れ、発表に対して消極的な児童にも、自分の考えを伝えることに対して自信をもたせたい。また、授業参観等で様々な授業形態を見てもらうことを通して、保護者への理解を図っていくことも重要であると思われる。

8 お子さんは、授業の内容をよく理解している。

	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
児童	65%	32%	3%	1%
保護者	16%	62%	20%	2%
教職員	20%	75%	5%	0%

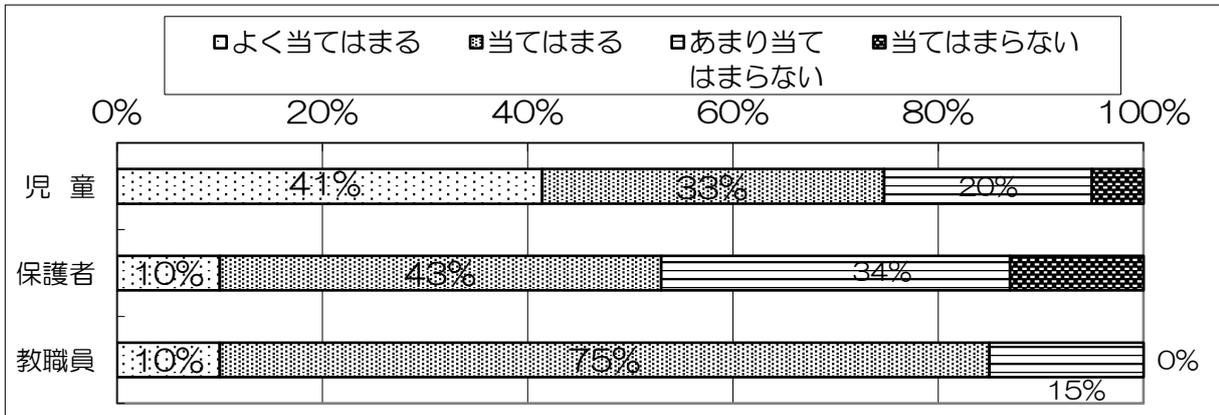


「よく当てはまる」「当てはまる」と答えた児童と教職員は100%近く、学力調査などの結果からも全体的には学習内容について理解が図られていると言える。しかし、「よく当てはまる」と答えた児童は60%を超えるのに対して、保護者と教職員は20%程度に留まっている。学習指導要領では、知識・技能は基本的な知識や技能の習得に留まらず、それらの知識や技能を、これまでに学んだことと関連づけて、他の場面でも活用できるような力を身に付けていくことも重視されている。総合的な学習の時間や他の教科とも関連を図るとともに、家庭でも様々な場面で知識・技能が活用できるよう、長期休業中も含めて、家庭と連携しながら、生きて使える力を付けていきたいと考える。

9 お子さんは、家庭学習の習慣が身に付いている。

(1年は30分くらい、2年は30分以上、3年は45分くらい、4年は45分以上、5年は60分くらい、6年は60分以上)

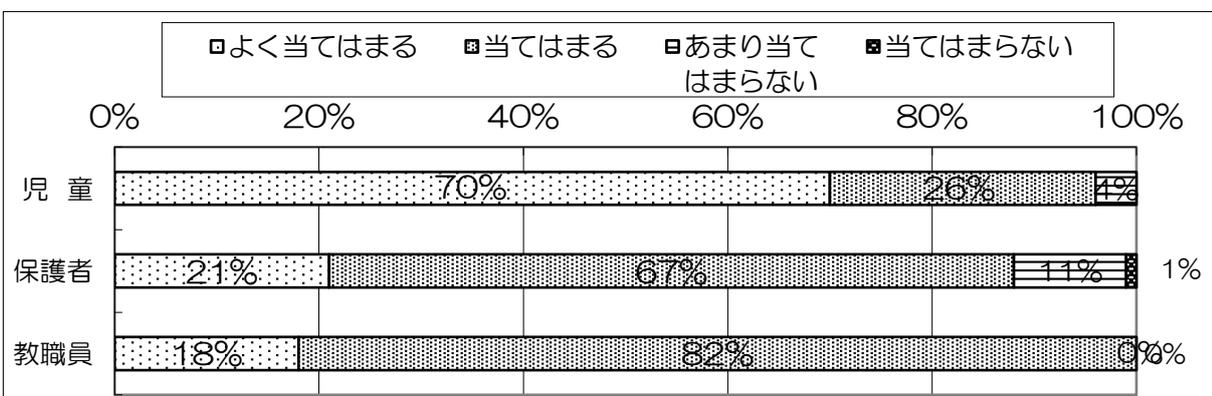
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
児童	41%	33%	20%	5%
保護者	10%	43%	34%	13%
教職員	10%	75%	15%	0%



「よく当てはまる」と答えた児童は40%程度なのに対して、保護者と教職員は10%に留まっている。とくに保護者は「あまり当てはまらない」「当てはまらない」の答えが50%近くおり、家庭学習の習慣が身に付いてないと考えている保護者が多い。今後更に、「家庭学習のヒント集」などを活用し、自主学習の例を示したり、個に応じた助言や指導を行ったりするとともに、家庭学習強調週間を充実させていくことで、家庭学習が習慣化できるようにしていきたい。また、学年・学級懇談会や個人面談等の機会を通して、家庭の様子や保護者の考えも聞きながら、どのように習慣を身に付けていくかについての共通理解を図っていく必要がある。家庭との連携をこれまで以上に重視し、協力を得ていかなければならない。

10 お子さんは、互いを思いやり、穏やかな気持ちで生活している。

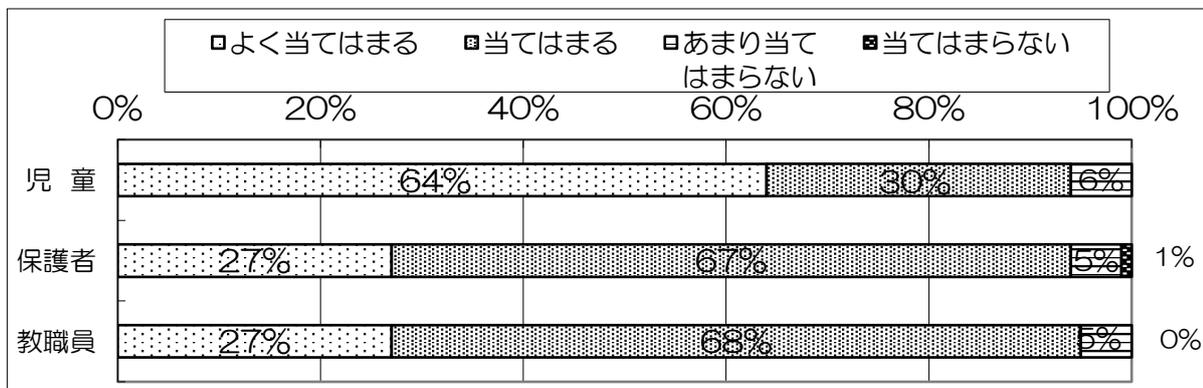
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
児童	70%	26%	4%	0%
保護者	21%	67%	11%	1%
教職員	18%	82%	0%	0%



吹上ブロック小中一貫教育に関わる設問である。児童、保護者、教職員ともに90%程度「よく当てはまる」「当てはまる」と答えており、おおむね望ましい結果となった。道徳科を要として、学校生活全般を通して協力や思いやりの指導を充実させるとともに、人権週間での様々な啓発活動、清掃や特別活動での異年齢集団活動等を通して、相手を思いやる気持ちを育てる活動を多く取り入れている成果と考えられる。しかし、「よく当てはまる」と答えた児童は70%なのに対して保護者や教職員は20%程度に留まっている。学校生活の中で心ない言動等が原因で、トラブルやいじめにつながるようなことがあることも現状である。今後も、児童相互の関わり、教師と児童との関わりを多くし、互いに思いやり助け合えるような場を設定していきたい。

11 お子さんは、友達のよさや努力を互いに認め合っている。

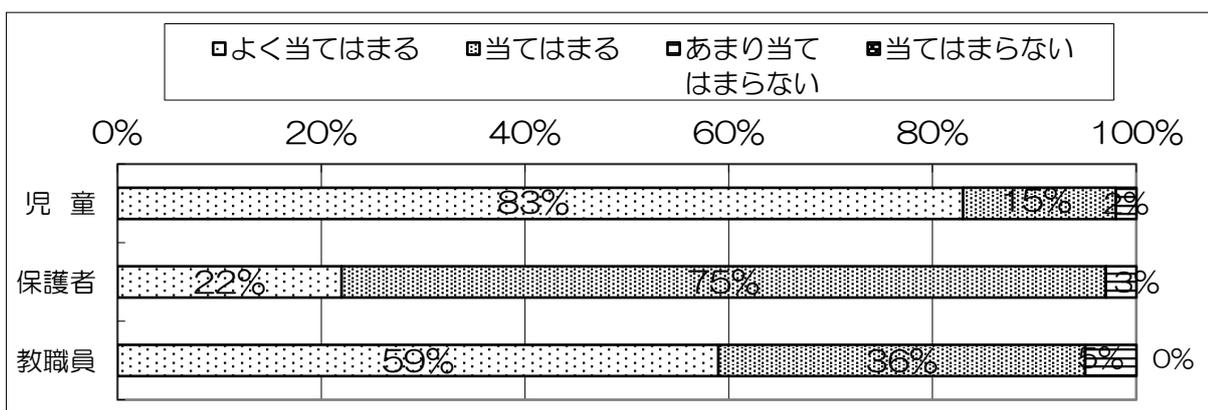
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
児童	64%	30%	6%	0%
保護者	27%	67%	5%	1%
教職員	27%	68%	5%	0%



吹上ブロック小中一貫教育に関わる設問である。児童・保護者・教職員の90%以上が「よく当てはまる」「当てはまる」と答えており望ましい結果であった。各学級での朝の会や帰りの会での互いのよさを認め合う活動や、学級経営の工夫や児童会活動等の特別活動の工夫の成果と考えられる。今後も本校児童のよさとして継続できるよう努めていきたい。なお、今回の児童の質問項目では「だれかが困っているとき、声をかけたり助けたりすることができますか。」としており、保護者や教職員とは若干違うものとなっていることが結果の違いとなって現れていると考えられる。

12 学校は、安全教育を充実し、交通安全の意識や態度を育てている。

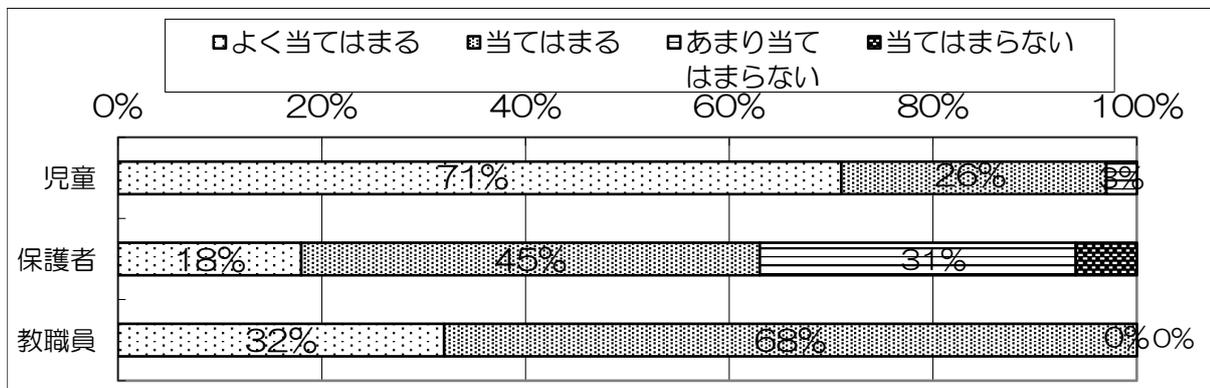
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
児童	83%	15%	2%	0%
保護者	22%	75%	3%	0%
教職員	59%	36%	5%	0%



児童、保護者、教職員ともに95%以上が「よく当てはまる」「当てはまる」と答えており、大変よい結果となった。しかし、保護者の記述の中には、下校の様子について心配する声も上がっている。実際、下校中のトラブルや交通ルールについて班員を集めて指導する場面もあった。交通量が比較的多く、歩道が狭い通学路もあるという現状を踏まえ、年1回の交通安全教室を引き続き行うとともに、自分たちの命は自分たちで守るという意識をもって行動できるように、繰り返し指導を行っていく必要がある。そして、立哨ボランティアや安全パトロール隊等地域の方々にも協力を得ながら、児童の安全を見守っていきたい。

13 お子さんは、家庭で進んでお手伝いをしている。

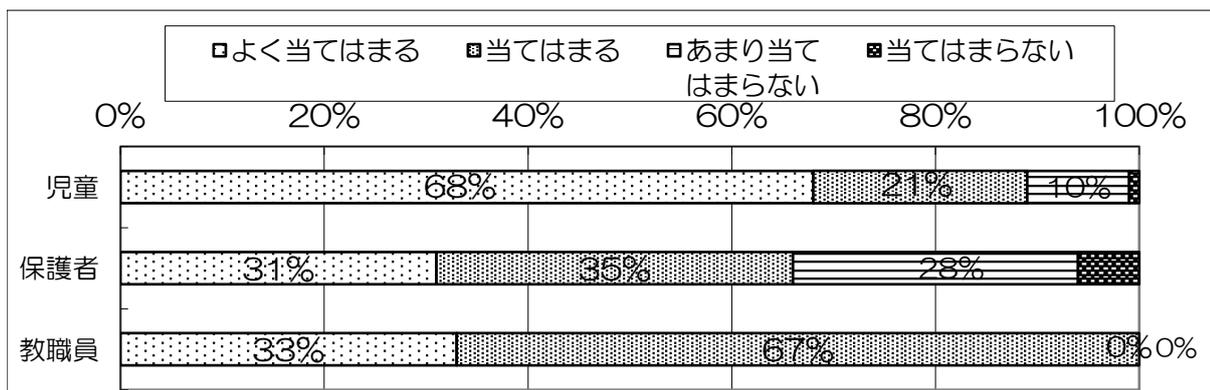
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
児童	71%	26%	3%	0%
保護者	18%	45%	31%	6%
教職員	32%	68%	0%	0%



95%を超える児童が「よく当てはまる」「当てはまる」と答えているのに対して、保護者は60%程度にとどまっている。教職員は100%であることから、学校では清掃や係の仕事等よくできるが、家庭では十分でないものと考えられる。家族の一員として、発達段階に応じた仕事を与え、家事をすることや働くことの大切さを感じさせてほしいことを懇談会の折に話題にしたり、学年だより等を通して啓発するなどの手立てが必要である。生活科や家庭科の時間等に、家庭での実践の場を作り、家族のために働くよさに気付かせていくとともに、PTAとさらに連携を図り、長期休業中を含め家庭で働く場を増やしていきたい。

14 お子さんは、進んで運動し、体力をつけようとしている。

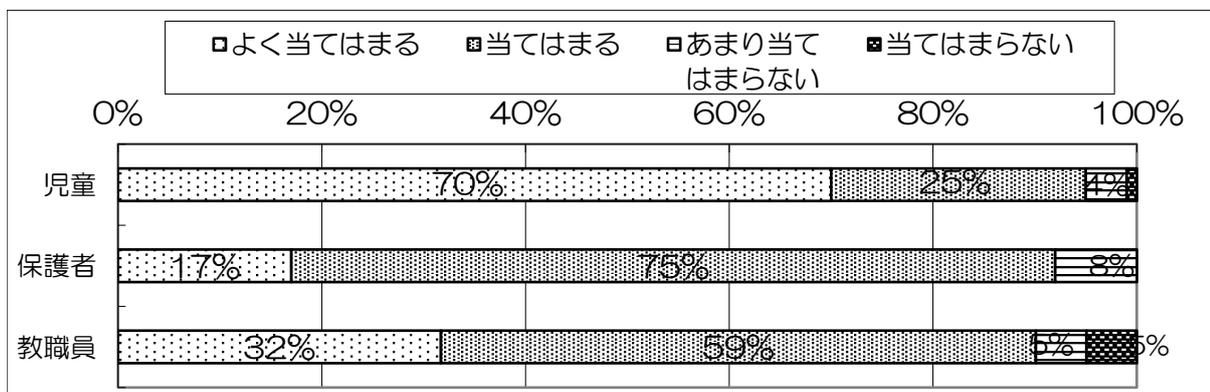
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
児童	68%	21%	10%	1%
保護者	31%	35%	28%	6%
教職員	33%	67%	0%	0%



児童の90%程度が「よく当てはまる」「当てはまる」と答えていて、運動しているという意識は高いと考えられる。しかし、保護者は70%以下に留まっており、児童と保護者の意識の差が見られる。家庭では、進んで運動する児童がいる反面、あまり運動を好まず、ゲームなどをする時間の多い児童も少なからず見られ、2極化が進んでいることが考えられる。能力や関心等個人差が大きいので、学校教育全体の中で、体育を中心に体を動かす楽しさを重視し、生涯スポーツにつなげるとともに、自分に合った目標をもたせ、継続して運動に取り組み体力の向上が図れるよう、指導を工夫していきたい。

15 学校は、積極的に食育を推進している。

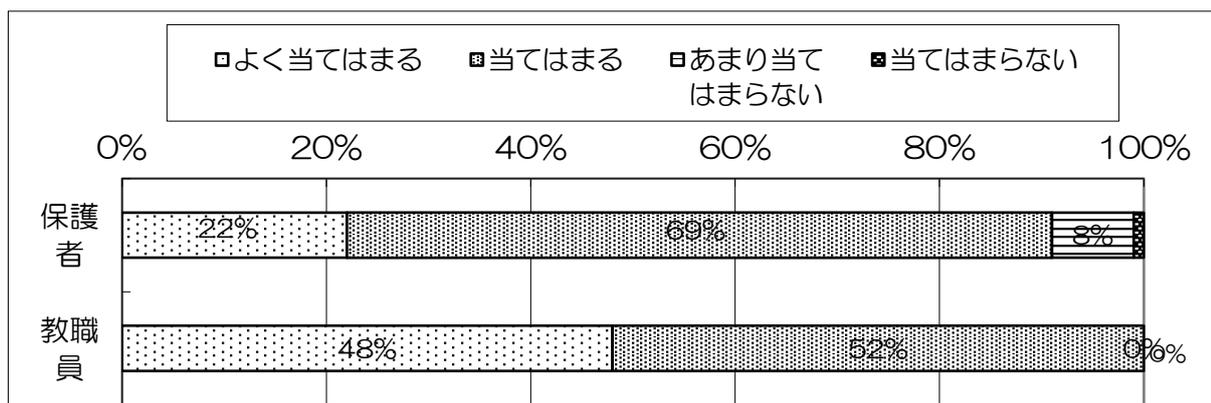
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
児童	70%	25%	4%	1%
保護者	17%	75%	8%	0%
教職員	32%	59%	5%	5%



児童・保護者・教職員ともに90%以上が「よく当てはまる」「当てはまる」と答えている。生活科で作物を育てたり、給食時に担任のない職員が各クラスに入って一緒に給食を食べたりしていることや、学校栄養職員による地場産の食材の紹介や学級活動での栄養指導が、児童の食育によい影響を与えており、保護者にも伝わっていることが伺える。今後さらに、生活科や家庭科の延長として家庭の協力も得ながら、食事作りに取り組みさせるなどして、食育の推進を図りたい。

16 学校の教育方針や取組を各便りや懇談会等で分かりやすく伝えている。

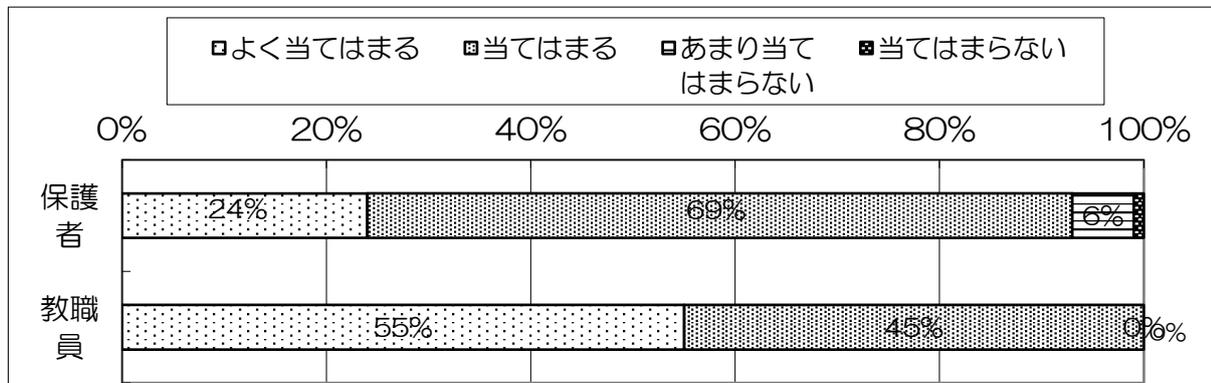
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
保護者	22%	69%	8%	1%
教職員	48%	52%	0%	0%



保護者の90%が「よく当てはまる」「当てはまる」と答えており望ましい結果であった。学校だよりや学年だよりに加え、ホームページでの情報公開も積極的に進めてきており、閲覧数も伸びている。来年度も、たよりやホームページ等いろいろな方法で、学校の様々な教育活動の様子を分かりやすくお伝えし、より多くの方々に、本校の教育についての理解を深めていただけるようにしたい。今年度はコロナ禍の中で学年・学級懇談会を持つ機会が十分ではなかったが、来年度は教職員が直接保護者と話すことができる懇談会や個人面談などの数少ない機会を、有効に活用していきたい。

17 学校行事やファミリー参観、授業参観などの時期や回数は適当である。

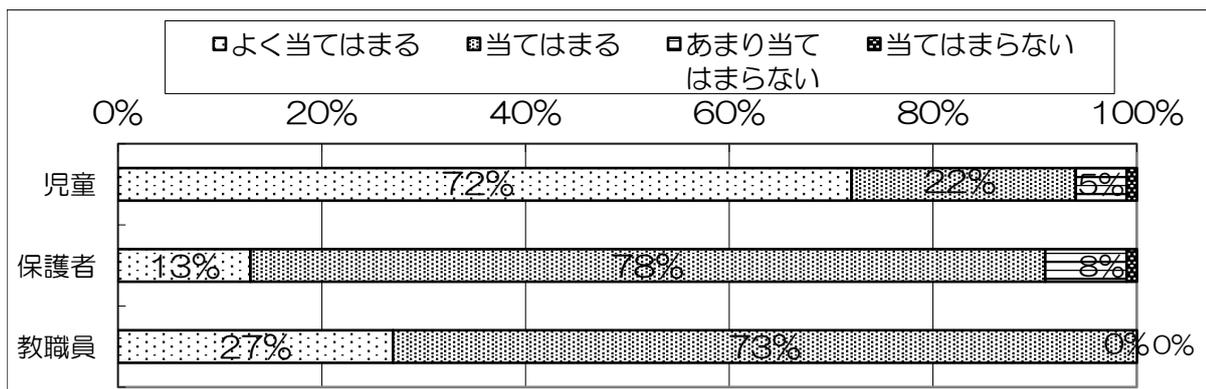
	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
保護者	24%	69%	6%	1%
教職員	55%	45%	0%	0%



90%を超える保護者が「よく当てはまる」「当てはまる」と答えている。今の行事や授業参観等のもち方に、多くの方は満足していただいていると考えられる。ただ、PTA活動なども含めると負担が多いと意見もあった。今年度はコロナ禍の中で中止になる行事もあったので、例年より負担は少なかったはずであるが、共働きの家庭が多いことを考慮すると、来年度も今年の回数を基本として開催時期が集中しないように配慮するとともに、早めの周知を心掛け、より多くの保護者が無理なく参加できる行事等の持ち方を工夫していきたい。

18 地域の教育力を生かして、ふるさとを愛する心を育てている。

	よく当てはまる	当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
児童	72%	22%	5%	1%
保護者	13%	78%	8%	1%
教職員	27%	73%	0%	0%



90%を超える児童、保護者、教職員が「よく当てはまる」「当てはまる」と答えており望ましい結果であった。特に児童は「よく当てはまる」が70%を超えており、吹上地区(栃木地区)に愛着心をもっているようである。第3学年では、社会科や総合的な学習の時間で地域に関わる内容が多く、いちご農家や、消防団、お囃子保存会など地域の人材等の協力を得ながら、効果的な学習を行うことができた。また、ここ数年コロナ禍のため行っていなかった読み聞かせボランティアが復活し、本に親しむ児童の育成のためにご協力をいただいている。来年度も感染拡大の不安は完全には払拭できないが、できることを前向きに検討し、児童のふるさとを愛する心情を更に育てていきたい。

